

日 時 平成17年9月30日(金) 5校時
児童数 1年生 男子1名
2年生 男子1名 女子1名 計2名
授業者 T1 上机真貴子
T2 網代正之

第2学年

1. 単元名 ようすを考えて読もう
教材名 「お手紙」

2. 単元について

(1) 児童について

2年生の児童は、国語の学習の進め方に少しずつ慣れ、一人学びの際には自分たちで進められるようになってきている。物語の学習で動作化をしたり、音読をしたりということにも意欲的に取り組んできた。一学期に学習した「スイミー」では、登場人物の様子を表している部分や会話文にサイドラインを引き、それをもとに吹き出しに書き込む活動を行った。吹き出しに書き込んだ内容の発表は、スイミーのペープサートを使いながら行った。最初は、ペープサートを動かすことができなかったが、だんだんと吹き出しに書いたこと以外にもつけ加えたり、ペープサートの動かし方でスイミーの気持ちを表現したりと楽しんで活動を行った。

(2) 教材について

第1・2学年の「C読むこと」における目標は、「書かれている事柄の順序や場面の様子などに気づきながら読むことができるようにするとともに、楽しんで読書しようとする態度を育てる。」である。これを受けて、本単元では『だれが・どうした』に気をつけて、登場人物の気持ちや場面の様子を想像しながら読んだり、声に出して読んだりし、二人の友情のお話を楽しむ。」を主目標とする。

本教材は、一通の手紙を通して、かえるくんとがまくんの心が触れ合い、友情が深まっていく様子が描かれている。毎日、来るあてのない手紙を待ち続けるがまくんの淋しさと、その心を思いやりそっと手紙を書くかえるくんの優しさは、児童が登場人物に共感しながら楽しんで読める内容である。

この作品は、会話文が多いこと、反復や対比の表現が多いことから、児童の意欲的な読みにつながると考えられる。かえるくんとがまくんの気持ちを考えさせ、会話文の音読を工夫することや反復、対比の文から様子や気持ちをさらに読み深めることができる教材である。

(3) 指導にあたって

本教材を指導するにあたっては、会話文の多い教材であることを生かして、役割読みで音読することを繰り返し行い、登場人物どうしの会話のやりとりを楽しませたい。その中で、場面の様子や登場人物の気持ちの変化が表現できるようにさせていきたい。

サイドラインも、がまくんやかえるくんの会話を中心に引かせ、それを手がかりに登場人物の気持ちを読み取っていく。そして、どのように音読すればいいかを考えさせていきたい。

一人学びでは、リーダーが学習を進められるようにしておくと共に、自力でサイドラインを引いたり、ワークシートへの書き込みができるように、ヒントカードを用意する。

(4) 仮説にかかわって

重要語句を明らかにし、確かに読み取るための発問、指導の手立て。

- ・ 会話文が誰の言葉が明らかにし、どのように音読すればよいか考えさせる発問をすることで、登場人物の気持ちや場面の様子を豊かに想像させる。
- ・ 場面ごとの重要語句と挿絵を中心にしたものをまとめ、学習の流れを掲示することによって、前時想起や学習の振り返りを行うための手立てとする。

重要語句に着目した読み取る力を身につけられるような支援。

- ・ ヒントカードを用意し、間接指導の際にも進められるようにする。
- ・ 児童が学習の進め方を理解してすすめられるように、学習の進め方を学習シートに明記する。

3. 指導目標

関心・意欲・態度

- ・ 作品の楽しさやおもしろさに気づき、かえるくんやがまくんになりきって、進んで読もうとしている。

読む力

- ・ 場面の様子やがまくん、かえるくんの心情について、想像しながら読むことができる。
- ・ がまくんやかえるくんの気持ちがよく表れるように、語や文のまとまり、声の大きさなどに注意して読むことができる。

言語の力

- ・ 主語と述語との関係に注意して読んだり書いたりすることができる。

4. 指導計画(11時間扱い、本時6時間目)

	主な学習活動	評価規準	具体的評価規準		努力を要する子への支援
			A	B	C
第一次つかむ	1全文を通読し、お手紙のあらすじをつかみ、初めの感想を書く。	(読)挿絵を参考にしながら、順番に物語のあらすじをつかむことができる。	「いつ」「どこで」「だれが」「なにをした」話を順を追って話することができる。	挿絵を見ながら、「いつ」「どこで」「だれが」「なにをした」ところかを順を追って話することができる。	あらすじをつかむことができない場合には、教科書を見ながら挿絵を並べ、確かめさせる。
	2場面分けをし、学習の見通しをもつ。	(読)挿絵を参考にしながら場面分けをし、どんな場面かをつかむことができる。	登場人物の様子やお話の中の語句に着目し、理由をつけて話することができる。	登場人物の様子やお話の中の語句に着目して話することができる。	見つけられない場合には、挿絵の中から好きな場面やおもしろいところを見つけさせる。

第二次 まなぶ (5)	3 悲しい気持ちでお手紙を待つがまくんの気持ちを読み取る。	(読)悲しい気持ちでお手紙を待つがまくんの気持ちを読み取り, がまくんの気持ちが分かるように音読することができる。	がまくんの話したことから 悲しい気持ちを吹き出しに書き 怒っている様子や あきあきしている様子で音読することができる。また,一緒に悲しい気分になっているかえるくんの吹き出しにも書くことができる。	がまくんの話したことから 悲しい気持ちを吹き出しに書き 怒っている様子や あきあきしている様子で音読することができる。	がまくんの気持ちを読み取ることができない場合には,挿絵のがまくんの表情から考えさせる。
	4 がまくんのために手紙を書く, かえるくんの気持ちを読み取る。	(読)がまくんを喜ばせようと,大急ぎで手紙を書きあげるかえるくんの気持ちを読み取り,工夫して音読することができる。	「大いそぎで」「とび出しました。」という言葉から,がまくんを喜ばせようとする考えが浮かんだときのかえるくんの気持ちを想像し,吹き出しに書くことができる。また,かえるくんの行動やかたつむりくんの会話文を速さや間に注意して音読できる。	「大いそぎで」「とび出しました。」という言葉から,がまくんを喜ばせようとする考えが浮かんだときのかえるくんの気持ちを想像し吹き出しに書くことができる。また,かえるくんの行動をテンポよく音読できる。	気持ちを考えられない場合には,挿絵をもとに,かえるくんがだれに何をしているところかを確認させる。
	5 あきらめてベッドにいるがまくんを励まそうとするかえるくんの気持ちを読み取る。	(読)あきらめてベッドにいるがまくんを励まそうとするかえるくんの気持ちを読み取り,工夫して音読することができる。	がまくんに語りかける言葉から,お手紙を待ちながら,一生懸命がまくんを励ますかえるくんの気持ちを想像し,吹き出しに書き,気持ちが分かるように音読することができる。また,がまくんの吹き出しにもあきらめているがまくんの気持ちを書くことができる。	がまくんに語りかける言葉から,お手紙を待ちながら,一生懸命がまくんを励ますかえるくんの気持ちを想像し,吹き出しに書き,気持ちが分かるように音読することができる。	気持ちを想像することができない場合は,「見ました。」のかえるくんのように,外を見る動作をして,かえるくんの気持ちを考えさせるようにする。

	6 かえるくんから手紙のことを聞いて、感動したがまくんの気持ちの変化を読み取る。(本時)	(読)かえるくんから手紙のことを聞いて、感動したがまくんの気持ちの変化を読み取り、工夫して音読することができる。	がまくんの言葉から、気持ちの変化を想像し、お手紙をもらって感動している気持ちを吹き出しにかき、気持ちが分かるように音読することができる。また、一緒に感動しているかえるくんの吹き出しにも書くことができる。	がまくんの言葉から、気持ちの変化を想像し、お手紙をもらって感動している気持ちを吹き出しに書き、気持ちが分かるように音読することができる。	気持ちの変化を想像することができない場合は、がまくんはお手紙のどこがうれしかったのか考えさせ、一の場面の挿絵と比較して考えさせる。
	7 手紙が届いたときのがまくんの気持ちを読み取る。	(読)手紙をもらって喜んだがまくんの気持ちを読み取り、その気持ちをかえるくんへの手紙に表すことができる。	「とてもよろこびました。」という表現から、初めてお手紙を手にして喜ぶがまくんの気持ちを想像し、かえるくんの手紙から受けた感動をかえるくんに伝えるように書いている。	「とてもよろこびました。」という表現から、初めてお手紙を手にして喜ぶがまくんの気持ちを想像し、がまくんになりきってかえるくんに対する気持ちを手紙に書いている。	手紙を書けないでいる場合は、前時のがまくんの気持ちや手紙の内容を振り返らせる。
第三次 いかす(4)	8・9 紙人形劇発表会をする。	(読)場面の様子や人物の気持ちを想像し、語や文のまとめ、声の大きさなどに注意して音読することができる。	読み取ったことを生かし、登場人物の気持ちが出るように声の大小、強弱、間の取り方などを工夫して音読している。	場面に合った声の大きさや調子で会話文を音読している。	すらすらと読めるように個別に練習時間をとる。
	10・11 主語と述語の意味と関係を理解する。	(言)主語と述語の意味と関係が理解できる。	主語と述語の意味と関係を理解し、教科書の挿絵のほかにも、いろいろな絵を見て、主語と述語がそろった文を作ることができる。	主語と述語の意味と関係を理解し、教科書の挿絵を見て、主語と述語がそろった文を作ることができる。	主語と述語が理解できない場合は、絵を見ながら、「何が」「どうした」を確認しながら、文を作らせる。

5．本時の展開

(1) 目標

かえるくんから手紙のことを聞いて、感動したがまくんの気持ちの変化を読み取ることができる。

(2) 評価規準

気持ちが変化していくがまくんの様子に興味を持って読もうとしている。

(関心・意欲・態度)

かえるくんから手紙のことを聞いて、感動したがまくんの気持ちの変化を読み取り、工夫して音読することができる。(読む力)

(3) 仮説にかかわって

重要語句を明らかにし、確かに読み取るための発問、指導の手立て。

- ・ 本時の挿絵と一の場面の挿絵を比較してがまくんの気持ちを考えることができるように、
掲示の仕方を工夫する。
- ・ 「きみが。」「ああ。」「とてもいいお手紙だ。」というがまくんの話したことを深める発問をすることで、前時までとは、気持ちが変化していることを捉えるための手立てとする。

重要語句に着目した読み取る力を身につけられるような支援。

- ・ がまくんの話したことに着目したり、がまくんの気持ちを考えたりできるようなヒントカードを用意し、間接指導の際にも進められるようにする。
- ・ 児童が学習の進め方を理解して進められるように、学習の進め方や課題が早く終わった場合の指示を学習シートに明記する。
- ・ ヒントカードを使っても、自力で学習が進められなかった場合は、ペアで学習する形態をとったり、T2が支援をしたりする。

(4) 展開

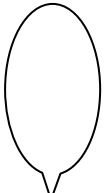
形態 (時間)	2年生			
	学習活動	留意点	支援	評価 重要語句
つかむ 5分	<p>1 前時の想起をする。</p> <p>2 本時の学習課題をつかむ。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;">かえるくんからお手紙のことを聞いて、がまくんはどんな気持ちになったでしょう。</div>	<ul style="list-style-type: none"> ・がまくんが、お手紙をもらえずにあきあきしていた場面であったこと、そんながまくんをかえるくんが励ましていた場面であったことを挿絵を使って確認する。 		
まなぶ 30分	<p>3 学習内容を読み取る。</p> <p>本時，学習内容を音読する。</p> <p>お手紙の内容を聞くまでのがまくんの様子を教師と一緒に確認する。</p> <p>お手紙の内容を聞いたがまくんの気持ちがわかる部分にサイドラインを引き、気持ちを想像する。</p> <p>サイドラインを引いた部分と、気持ちを発表し合い、どのように音読したらいいか考える。</p> <p>どのように音読したらいいか考えたことを生かし、役割読みの練習をする。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・個別に音読させる。 「きみが。」 「ああ。」 「とてもいいお手紙だ。」 <p>サイドラインを引けない児童のために、がまくんの話した部分に着目させる。気持ちが想像できない児童のために、サイドラインを引いた会話文の後に続く言葉を考えるように指示を書いたヒントカードを用意する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・早く終わったら、かえるくんの気持ちも考えてみるように指示をする。 <ul style="list-style-type: none"> ・「親友」、「うれしく思っています。」という言葉からも、がまくんの感動や喜びの気持ちをとらえさせる。 サイドラインを引いた言葉をもとにして、がまくんの感動や喜びの気持ちを想像することができているか。(シート) ・がまくんとかえるくんの役を交代しながら読む。 		
いかす 10分	<p>4 本時の学習をまとめる。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;">がまくんは、かえるくんからお手紙のことを聞いて、とてもしあわせな気持ちになりました。</div> <p>がまくんの気持ちがわかるように1年生を相手に役割読みをする。</p> <p>5 今日の学習の感想を書き、次時の学習内容を確認する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・まとめは、書き出しを指定し、シートのまとめ欄に言葉を入れていく形にする。 登場人物の気持ちが分かるように音読しているか。(音読) ・1年生と学習の感想を交流する。 		

(5) 具体の評価規準と努力を要する子への支援

	関心・意欲・態度	読む力
十分満足な子	がまくんの気持ちの変化に興味をもち、読み取ったがまくんやかえるくんの気持ちを音読に生かそうとしている。また、かえるくんの気持ちにも興味を持って読もうとしている。	がまくんの言葉から、気持ちの変化を想像し、お手紙をもらって感動している気持ちを吹き出しにかき、気持ちが分かるように音読することができる。また、一緒に感動しているかえるくんの吹き出しにも書くことができる。
概ね満足な子	がまくんの気持ちの変化に興味をもち、読み取ったがまくんやかえるくんの気持ちを音読に生かそうとしている。	がまくんの言葉から、気持ちの変化を想像し、お手紙をもらって感動している気持ちを吹き出しに書き、気持ちが分かるように音読することができる。
努力を要する子への支援	一の場面と四の場面の挿絵を比べて、興味をもたせるようにする。	気持ちの変化を想像することができない場合は、がまくんはお手紙のどこがうれしかったのか考えさせ、一の場面の挿絵と比較して考えさせる。

(6) 板書計画

がまくんは、かえるくんからお手紙のことを聞いて、とてもしあわせな気持ちになりました。



「きみが。」

「ああ。」

「とてもいいお手紙だ。」

「しあわせな気持ち。」

「親愛なるがまがえるくん。ぼくは、きみがぼくの親友であることを、うれしく思っています。きみの親友、かえる。」

「きみが。」

「びっくりするがまくん。」

かえるくんからお手紙のことを聞いて、がまくんはどんな気持ちになったでしょう。

お手紙

アーノルド・ローベル さく

お手紙のことを話すがまくんとかえるくんの挿絵